

連続講座 移住者の権利キャンペーン2020  
「ここにいる koko ni iru.」企画

# 移民二世から の研究発信

徳森りま（早稲田大学大学院修了）

「在日米軍基地が作り出すエスニック・  
マイノリティ:フィリピン・ウチナンチュ  
へのインタビューを通じた考察」

仲田幸司Enrique（大阪大学大学院）

「Umanchunu uchinaaguchi制定にむけた  
—試論:沖縄人ディアスポラをつなぐという  
こと」

コメンテーター：岸政彦（立命館大学）

大阪大学中之島センター講義室201  
（大阪市北区中之島4-3-53）



12/8  
13:30-17:30

# 移民二世からの研究発信

外国から出稼ぎ労働者が来日するようになって30年が経過し、日本で育った子ども世代のなかから、「移民研究者」が誕生しています。「移民」を、みずから経験してきた研究者たちは、自分たちを対象としてきた先行研究をどのように読み、研究者としてみずからはどのようにアプローチしていくのでしょうか。第7回目は、沖縄×移民をめぐる徳森りまさんと仲田幸司 Enriqueさんの報告、岸政彦さんからのコメントです。

## 徳森 りま（とくもりりま）

1987年、沖縄県生まれ。父方がペルー、母方の親族がフィリピンにルーツをもつ家庭で育つ。2014年、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程修了（国際関係学）。著書：「沖縄の声を届ける—世界に、日本に、一人ひとりに」（共著『日本と沖縄：常識をこえて公正な社会を創るために』反差別国際運動、2016年）ほか。

## 仲田幸司 Enrique（なかだこうじえんりけ）

ポリグロットうちなんちゅ。最近までペルーのうちなんちゅに Uchinaaguchi を教える活動を展開していた。琉球諸語の言語再活性化・世界のうちなんちゅを繋ぐという二つの軸をもとに現在博士論文執筆中。

## 岸政彦（きしまさひこ）

社会学者。1967年生まれ、大阪在住。立命館大学大学院先端総合学術研究科教授。研究テーマは沖縄、生活史、社会調査方法論。著書：『同化と他者化—戦後沖縄の本土就職者たち』（ナカニシヤ出版、2013年）、『街の人生』（勁草書房、2014年）、『断片的なものの社会学』（朝日出版社、2015年）、『質的社会調査の方法—他者の合理性の理解社会学』（共著、有斐閣、2016年）、『はじめての沖縄』（新曜社、2018年）ほか。



移住者の権利キャンペーン2020「ここにいる koko ni iru.」とは

移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）は、移住者と多様なルーツをもつ人々の権利と尊厳が保障される社会、制度、政策をめざして、多くの人が参加し、意見を出し合う場をつくる、移住者の権利キャンペーン2020「ここにいる koko ni iru.」をスタートしました。タウンミーティングなどを通し、移住者あるいは外国にルーツを持つ方々が「ここにいる」ことを社会に広めるとともに、2020年に向けた政策提言を発表します。

